

京都大学と NTT 西日本が MoU を締結 地域社会の発展および学術・技術の振興への寄与に向けた連携強化へ

国立大学法人京都大学（本部：京都府京都市左京区、総長：湊 長博、以下、京都大学）と NTT 西日本株式会社（本社：大阪府大阪市都島区、代表取締役社長：北村 亮太、以下、NTT 西日本）は、相互の知見・資源を活用し、地域社会の発展および学術・技術の振興への寄与に向けた、MoU(Memorandum of Understanding、覚書)を 2025 年 10 月 15 日（水）に締結しました。



京都大学の引原隆土理事・副学長（左）と NTT 西日本の桂一詞副社長（右）＝京都府京都市の京都大学

1.背景・目的

データ社会の進展に伴い、データ駆動型研究はさまざまな分野で重要性が高まっています。大学には学術的知見を基盤とした先端研究の推進が、企業には社会実装を通じた持続的成長への貢献が求められています。

京都大学は長年にわたり、多様な学術領域で世界を先導する知見を蓄積し、社会課題解決のための研究開発と人材育成に取り組んできました。一方、NTT 西日本は地域社会に根ざした ICT インフラを強みとし、デジタル技術を活用した新たな価値創造に挑戦しています。

このような背景のもと、京都大学および NTT 西日本が、教育・研究・人材育成・地域貢献・技術開発等の分野において協力関係を構築し、京都大学が掲げるキャンパスプラットフォーム構想の実現およびそれに向けた Innovative Optical and Wireless Network（以下、「IOWN」）技術の実装、人材交流（研究者の育成・確保・活用）、知的財産管理等を含む包括的な連携を推進することを目的に、本 MoU を通じ、取組の強化を一体となって実施してまいります。

2.取り組み

京都大学および NTT 西日本は、以下の項目について、相互に連携・協力し、取り組みを強化してまいります。

- ・京都大学が掲げるキャンパスプラットフォーム構想の実現に向け、NTT の IOWN 技術を活用した新たな協創基盤の創出

- ・ IOWN 技術の社会実装を加速するため、教育・学術分野への応用および地域社会への展開
- ・ 社会課題の解決に資する実証プロジェクトおよび共同研究の推進

3.MoU 締結時期

2025 年 10 月 15 日（水）

4.今後の展開について

京都大学および NTT 西日本は、これまで以上に連携強化した検討・取組を一体となって実施することで、地域社会の発展および学術・技術の振興への寄与による新たな価値創造に努めてまいります。

※ニュースリリースに記載している情報は、発表日時点のものです。変更になる場合がありますので、あらかじめご了承くださいとともに、ご注意をお願いいたします。